

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科名	保健体育
研究課題	<p>◇体育分野と保健分野の両方を取り組むものとする</p> <p>【体育分野】</p> <p>○今回の中学校学習指導要領保健体育の改訂の重点である指導内容の明確化（中学校学習指導要領解説保健体育編 p9）を踏まえ、指導が難しいとされる下記の②についての研究</p> <p>②運動を合理的に実践するため、運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善についての研究</p> <p>【保健分野】</p> <p>○個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を図り、以下の単元における「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の「(1)心身の機能の発達と心の健康」 ・第2学年の「(3)傷害の防止」 ・第3学年の「(4)健康な生活と疾病の予防」 				
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくさっぽろちゅうがっこう 北海道教育大学附属札幌中学校（338人）				
所在地（電話番号）	北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1-11 Tel011-778-0481				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.hue-fsj.ed.jp/study/2012/05/post-1.html				
研究のキーワード	「学びの主体者となる生徒」 「問い」 「問う」 「学び合い」				
研究成果のポイント	<p>○生徒自らが「問い」を生む過程を重視したことで、学びに対する意欲を高めることができた。</p> <p>○「問い」を解決するための方法を検討し、探究する活動を通して、研究課題である思考力・判断力等を高めることができた。</p> <p>○「問い」を解決するための方法を検討するなどの探究する活動を工夫することができた。その結果、探究するために、他者に「問う」ことにより、複眼的な視点で解決方法を検討することができ、研究課題である思考力・判断力等を高めることに寄与した。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「学びの主体者」となる生徒の育成 — 「問い」を活かす授業の探究 —

(2) 研究主題設定の理由

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展等、変化の著しい社会を生き抜くためには「生きる力」が必要であり、いかなる環境においても、自分の考えをもつこと、そして、自ら判断し行動することが求められている。学校生活においてこれらを身に付けた具体的な姿とは、異なる意見や多様な考えを聞いたときに、相手の意見を受け入れたり、自分の考えを変えたりまとめたりすることができる姿、自分の考えも含めて批判的、客観的に見ることができ、自分が夢中になっているときに、冷静になれるような意見を言える姿、また、話し合いの内容がある一点にばかり目を向けられているときにその全体を客観的に捉えることができる姿といえる。こうした生徒を育てていきたいという願いや、集団に埋もれ個を生かすことができずにいる生徒が多いという本校生徒の実態から、集団と個における関係性を踏まえ、研究主題を「『学びの主体者』となる生徒の育成」と設定した。

(3) 研究体制

- | | |
|-------------------------------------|-----------------|
| ・本校全教員出席による会議にての研究討議（週1回） | ・本校研究部との連携（月2回） |
| ・札幌市学校体育研究連盟の中学ブロック研究会議での学習案検討（月2回） | |
| ・大学教員との連携、及び、指導検討会の実施（月2回） | |

(4) 1年間の主な取組

平成27年	06月16日	札幌市教育研究推進事業研究集会にて研究実践発表
	07月27日	教育研究大会にて体育分野・保健分野の公開授業【高橋調査官，森調査官訪問】
	10月14日	札幌市教育研究推進事業研究集会にて研究実践発表
	10月16日	北海道学校体育研究連盟全道大会にて研究実践発表
度	11月04日	体育分野の公開研究授業【文部科学省初等中等教育局教育課程課 大杉室長訪問】

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

研究主題である『学びの主体者』となる生徒を「自らの思考・判断をもとに，自他に働きかける生徒」および「他者との関わりを通して，自分自身を客観的に捉え，成長に向かうことができる生徒」とした。この『学びの主体者』となる生徒の育成に向け，研究仮説を「生徒自らが「問い」を生み，「問う」ことの価値を実感する学び合いによって，『学びの主体者』となる生徒を育成することができる。」と設定した。本校では，「問い」を，これまでの自分の認識や経験の違いから生じた疑問のうち，解決したいと強く思うものとし，「問う」を「問い」を解決するために他者に働きかける行為と定義した。「問う」行為は，対話や協議などにより言語活動を充実させ，思考力・判断力等の育成を目指すものでもある。

(2) 具体的な研究活動

思考・判断に関する指導内容は，体育分野においては，課題に応じた運動の取り組み方を工夫することであり，保健分野では，健康課題の解決に向けた科学的な思考と正しい判断の下の意志決定や行動の選択である。これらの指導内容から，生徒の思考力・判断力等を育成するための指導や評価方法として，本研究では「問い」と「問う」を設定した。「問う」は「問い」により成立し，他者に自らの考えを「問う」ことによって，より具体的に，より適切に課題解決の在り方を探究することになり，保健体育科の目標に迫るための一助となる。「問う」は「問い」の解決を目指し，習得した知識や技能を活用して仮説や解決の方法を考え，課題解決を通して新たな「問い」を生むことになる。これらを踏まえ，思考力・判断力等を育成する指導や評価方法として，主な研究の視点を以下の通りに設定し，研究実践を進めた。

A 生徒自らが「問い」を生む手立て

- ①【体育分野】【保健分野】 既成概念を確かめる学びの重視
- ②【体育分野】 「やりたい」のに「できない」から「問い」を生む授業の展開

B 「問う」ことの価値の実感をもたらす手立て

【体育分野】【保健分野】「問い」を解決するための自らの「仮説」の設定と検証の重視

3 研究の成果と課題

(1) 成果

A 生徒自らが「問い」を生む手立て

①【体育分野】【保健分野】 既成概念を確かめる学びの展開

生徒の既成概念を教師が改めて確かめることで，明らかにしたい内容の本質に迫り，「問い」を生む手立てとした。生徒が何となく認識していた内容に対して，正しい認識なのかを吟味したり，具体的な根拠を示したりすることで，「本当はどうしたらよいのだろうか」「具体的な方法はどのようなものだろうか」などといった「問い」を生むことができる。

第3学年 保健分野 (4) 健康な生活と疾病の予防 エ 感染症の予防 (イ)エイズ及び性感染症の予防

感染症の予防方法に関する知識の活用を通して、エイズ(HIV)特有の疾病概念を理解し、予防方法を検討することで、学習したことを事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして、道筋を立ててそれらを説明することを本時の目標とし、思考力・判断力等の育成を目指した。そのために、本時において生徒自らが生む「問い」を、「なぜ、感染の心配がある性的接触直後の HIV 検査が陰性だったにも関わらず、HIVに感染し、エイズを発症したのだろうか。」と設定した。この「問い」を自らが生むために、これまで学習した性感染症の疾病概念と異なる、HIV 感染特有のウィンドウ・ピリオド(window period)が原因となる事例を提示した。

事例は、ウィンドウ・ピリオドの期間に検査を受けたことにより感染を発見できず、以後、エイズの発症に加え、母子感染につながるものである。HIVのウィンドウ・ピリオドは最大3ヶ月間あり、前時までに扱った性感染症の特性とは大きく異なる。潜伏期間も長いことや、感染数が増加している現状を捉え、今までに身に付けた知識や考え方をもとに、「どうしたら性的接触での HIV の感染を防ぐことができるか」という学習課題の共有化と解決を目指した。

HIVの感染の原因を、性感染症で学習した内容と比較・整理することで推測し、事例からは説明できない点を整理する活動を通して、HIVの特有のウィンドウ・ピリオドの存在からエイズの疾病概要を理解し、成人になったとき、性的接触による HIV の感染を防ぐための方法をまとめた。この学習を通して、性的接触を行わないことや感染経路を遮断する性的接触にすることで感染を防ぐこと、感染の心配がある場合は、3ヶ月後のウィンドウ・ピリオドが経過した後に検査を行い、陽性の場合、適切な治療や投薬を行うことの必要性を整理し、記述を通して説明することができた。

②【体育分野】 「やりたい」のに「できない」から「問い」を生む授業の展開

「新たな技に挑戦したいがどうしたらよいか?」「うまく動きが仲間と合わない。なぜ、うまくできないか?」などという「やりたい」のに「できない」から、「問い」を生むこととした。この手立てにおける大切な視点は、教師による価値付けである。教師による価値付けは、生徒が実物に触れたり、見本を直接観察したりすることで、「できると格好いいな!」「複雑な動きや事象を整理するとすっきりするぞ!」というような憧れを抱くことができる。この憧れがもととなり、「このままではできないぞ! どうしたらよいか?」「どんな方法が考えられるだろうか?」という「問い」を生むことができる。

第3学年 球技 インディアカ(ネット型)

役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開するために、仲間の技術的な課題や動き方について指摘することを本時の目標とし、思考力・判断力等の育成を目指した。そのために、本時において本時における生徒自らが生む「問い」を「理想の動きはどのようにしたら成功するか」とし、学習課題を「役割に応じたボール操作と連携した動きには、どのような動き方が必要だろうか」と設定した。この「問い」を自らが生むために、「やりたい」のに「できない」状況を設定した。授業導入時にゲームを振り返り、役割に応じたボール操作と連携した動きの課題について他者評価をもとに「問い」を明確にした。他者評価は、仲間の課題を指摘するための思考力・判断力が必要であり、これまで身に付けた知識や技能を活用することが求められる。「問い」の解決はチーム力の向上への関連を価値付けすることで、連携した動きを実現したいと願いに結びつき、「問う」活動へとつながる。

これまで身に付けたボール操作やボールを持たないときの動きを活用し、状況に応じた理想の動き方を整理することから、ボールの位置や軌道を想定して、体を動かしながら互いの具体的な動き方を

検討し確認した。その後、チーム練習の場において、役割に応じたボール操作と連携した動きを確かめながら練習を行い、互いの動きを捉え、運動の行い方や動き方を工夫した。理想の動きをイメージし、チームとしての動きを確認しながらゲームを行い、ポジションによる役割を明確にし、攻撃につながるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げたり、ネット際でボールの侵入を防いだり打ち返したり、空いた場所をカバーする動きの必要性を見出し、役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開するために、仲間の技術的な課題や動き方について指摘することができた。

B 「問う」ことの価値の実感をもたらす手立て

【体育分野】【保健分野】「問い」を解決するための自らの「仮説」の設定と検証の重視

「問い」を解決するために生徒一人一人が、自らの「仮説」を設定することとした。「問う」ことの価値を実感するために、「自ら」という視点を大切にしたい。これまで、グループ学習において、「問い」を解決する方法を模索するとき、他者の考えに同調し、適切な方法なのかも吟味せずに、他者の考えを鵜呑みにして活動する姿も多く見られた。自らの考えや判断を大切にすることにより、「問い」を解決する過程を明らかにすることとした。「〇〇すればよいのではないだろうか?」「△△で動いてみよう!」という予想を「問い」を解決するための仮説とした。生徒が設定した「〇〇をすると、△△ができるのではないだろうか」という仮説は、他者との交流から、解決の可能性を高めたり、手立ての幅を広げたりすることができる。生徒が立てた仮説の探究は、課題の解決を導き、本時の目標（思考力・判断力等の育成）の達成へとつなげることができた。

(2) 課題

思考力・判断力等の育成のために「問い」の設定とその解決の授業展開を手立てとしたが、本校の研究仮説で示した通り、「生徒自ら」が主体となって「問い」を設定できる学習展開が必要である。授業者から「問い」を示された状態では、学習意欲が高まらないだけでなく、「問い」を解決するための「仮説」を立てることができず、結果として解決につながらない。「やってみよう」「解決したい」という生徒の願いが込められた「問い」としていくためには、「問い」を生む段階での自律的な学びが必要である。この自律的な学びには、他者との関わりを通して、問題を発見することや、課題を的確に設定すること、解決のためのプランを立てることを大切にしていける必要がある。

また、思考・判断する内容の整理が重要である。ただ考えることができればよいわけではない。思考・判断すると関連して高めることができる「技能」「態度」「知識」の内容を検討し、思考・判断に関する「目標」「内容」「指導方法」「評価規準」の一体化・系統化を図るべきである。よって、思考・判断する内容を、単元や題材の特質に応じて検討することが大切である。

運動の行い方のポイント、課題を解決するための方法は、内容の提示によっても身に付けることができる。これまでに身に付けた知識や技能を活用し、思考力・判断力等を育成するには、じっくり探究する時間の確保が必要である。ただし、体育分野においては、運動量とのバランスも考慮していく必要があることから、「考えながら動く」「動きながら確かめる」など、学習活動の展開の在り方も今後の検討していく必要がある。

(3) 研究2年目へ向けての取組

- ①平成28年06月14日（火）札幌市教育研究推進事業保健体育部会において研究授業を行う。
- ②平成28年07月26日（火）北海道教育大学附属札幌中学校教育研究大会において研究授業を行う。
- ③平成28年10月15日（土）学校体育研究連盟北海道大会において研究発表を行う。